GT 125

フロントブレーキレバー
フロントウインカーランプ
リヤブレーキレバー
オイルレベルゲージ
トランクボックス
ヘッドライト
フロントポケット
燃料タンクキャップ（左前部）
ストップ/テール/ウインカーランプ
シートキー
エアクリーナー
方向指示器/ホーン/ライト切替/パッシングスイッチ
ハンドルグリップ
スタータースイッチ/シートオープンスイッチ
メインスイッチ
バッテリー/ヒューズ/C.D.I.
マフラー（触媒還元装置）

このマニュアルでは、このスクーターの正しい使い方とともに安全走行、簡単な点検方法などをご紹介しております。より快適で安全な走行のためにも車両の取扱いに慣れた方も独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱説明書をお読み下さい

お買い上げの時にはこの説明書をもとに以下の事について SYM 特約店より説明をお受け下さい。
- 正しいスクーターの使い方
- 保証内容及び保証期間
- 乗車前の点検とメンテナンス

- 車両の仕様、その他の変更によりこのマニュアルの内容と実車が一致しない場合がございます。ご了承下さいますようお願い申し上げます。

ご愛用を感謝いたします

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車両をお持込のうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行ってください。

環境汚染防止の為に以下のことにご注意ください

1,使用ガソリン：レギュラーガソリンを使用して下さい

2,エンジンオイル：SAE10W-40 API SH/CD または同等以上のエンジンオイルを使用して下さい。

3,定期ﾒﾝﾃﾅﾝｽｽｹｼﾞｭｰﾙにしたがって、定期的な点検とﾒﾝﾃﾅﾝｽをお受け下さい。

4,環境汚染防止のためにも、排気系統の改造は絶対にしないで下さい。

5,注意事項：点火ｼｽﾃﾑ、充電ｼｽﾃﾑ、燃料ｼｽﾃﾑは排気ｶﾞｽ制御ｼｽﾃﾑの正常な作動に関係します。

6,ｴﾝｼﾞﾝがうまく作動しない時は、SYM 特約店に車両をお持込になり、点検修理を依頼して下さい。

- **必ず無鉛レギュラーガソリン（オクタン価 90 以上）をご使用下さい。**

純正スペアパーツ

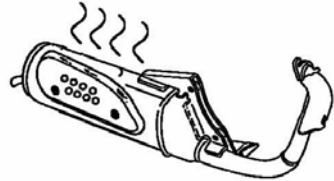
二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はもともとのデザインが要求するものに適合する必要があります。”SYM 純正ｽﾍﾟｱﾊﾟｰﾂ”は現二輪車に使用された物と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通じて生産される”SYM 純正スペアパーツ”を SYM 特約店からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

安全運転

走行時にはリラックスして、運転に適切な服装である事が重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般的に、多くの人は新車購入時にはとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなります。

忘れないで！：

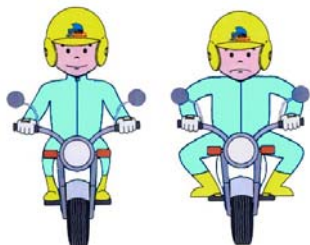
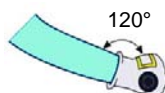
- ﾍﾙﾒｯﾄは必ず着用して下さい
- 走行中は携帯電話を使用しないで下さい
- 制限速度を守って下さい
- 定期点検とメンテナンスを実施して下さい

マフラー高温注意！！

⚠ 警告！！

- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いて下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンス時は火傷に注意して下さい。また、駐車する場合もほかの人がマフラーで火傷をしないように充分に注意して駐車して下さい 。

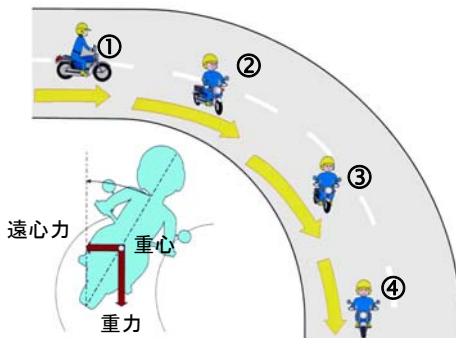
ドライビング

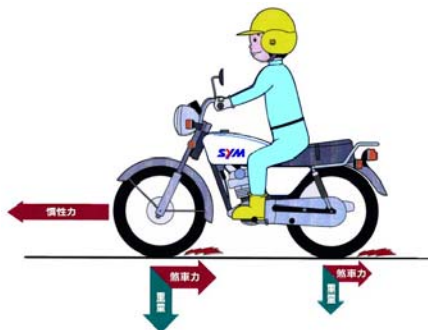
運転姿勢:

- 走行に当たっては身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。運転者の姿勢は安全運転に大きく影響します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られやすくなります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険ですのでおやめ下さい。

カーブ走行時のポイント

- カーブを曲がる時には運転者と車体が同一方向に傾けるとターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車体を傾けないと不安定になります。

カーブ走行要領:

①.カーブ手前でしっかり減速する
②.カーブ走行中は速度を一定に保つ
③.カーブを出る時は適度に加速し、安定走行を保ちましょう
④.カーブを出た後は前後の安全を確認してから加速しましょう

ブレーキの要領

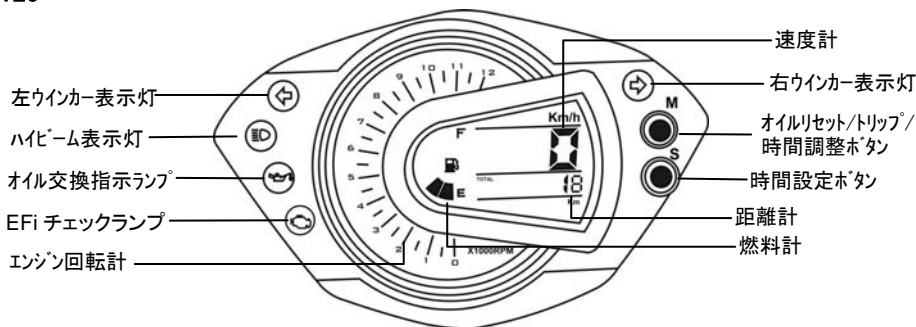
- ブレーキをかける時は、前後ブレーキを同時にかけましょう。二輪車の性格上、片方だけかけると不安定になり、転倒しやすくなります。車体をまっすぐに保ち、急ブレーキは避けて下さい。急ブレーキはタイヤロックを招き、大変危険です。

悪路走行時の注意点:

- でこぼこ道、未舗装道路、路面変化の激しい山道では不安定な走行となりがちです。スムーズに走行できるように予め道路状況を把握してスピードを落とし、姿勢の安定を保ち、肩の力を抜いてハンドル操作をしましょう。

⚠ ご注意

- ｳｴｽ等の燃え易い物をﾎﾞﾃﾞｨｶﾊﾞｰとｴﾝｼﾞﾝの間に置かないで下さい。火災の原因になります
- 指定以外の場所に荷物を置かないで下さい。車両を傷める原因になります
- ﾌﾛﾝﾄﾎﾞｯｸｽに荷物を入れ過ぎないで下さい。ﾊﾝﾄﾞﾙ操作に影響を及ぼします
- 荷物を積むと、積まない時に比べてﾊﾝﾄﾞﾙの感覚が変わりますから注意しましょう。積みすぎるとﾊﾝﾄﾞﾙがふられ、運転を誤る事があるので、注意しましょう
- スクーターの改造はその構造や性能に影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります
  また、保安基準に適合しない改造は絶対にしないで下さい。改造されたスクーターは
  保証修理対象外になりますので、ご注意ください。

メーター【以下の説明は SYMGT125 ｼﾘｰｽﾞの基本操作です。各ﾓﾃﾞﾙ仕様により異なります】

GT125

オイル交換表示灯

エンジンオイル交換指示灯はオイル交換時期お知らせします，指示灯でお知らせします，最初の 1000KM くらいに，指示灯は点灯します，それは検査もしく交換時期お知らせします。交換されていない場合の不具合は保証対象外になりますので、ご注意下さい)ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ交換後は “M” ﾎﾞﾀﾝを長押しする事でこの表示灯は消灯し、ﾘｾｯﾄが完了します。車輌は 1000KM ごとに検査が必要です，状況によって足したりしてください，3000KM ごとにオイルを交換してください。

トリップメーター

1. 総走行距離と区間走行距離の表示を切り替える事ができます。
2. メインスイッチ “ON” した後に “M” ボタンを押すとオドメーター、トリップメーター、時間と表示を切り替える事ができます。
3. トリップメーター表示時に “S” ボタンを長押しするとリセットができます。

時間設定

1. 12 時間制で時間の設定ができます。
2. メインスイッチを “ON” すると 12 時間表示で時間と分が表示されます。
   時刻を合わせる時は車両を停止させて、“S” ボタンを長押し(2 秒以上)すると時刻設定モードになります。この時に “S” ボタンを押すと設定の切替モードになります。(押す毎に時間→十の位の分→一の位の分)それぞれのモードで “M” ボタンを一回押すごとに数字は 1 ずつ増えます。設定が出来たら “S” ボタンを長押し(2 秒以上)するとセットされます。

スピードメーター

走行中の速度を表示します。法定速度を守りましょう。

距離計

走行距離を表示します。オイル交換指示ランプが点灯したら交換して下さい。

ハイビーム表示灯

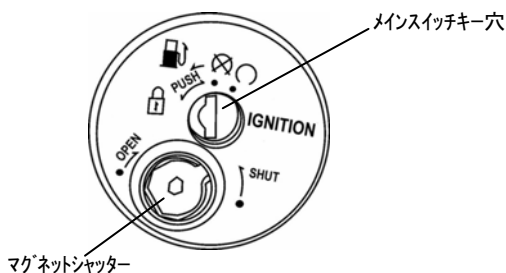
ヘッドライトをハイビームにした時に点灯します。

ウインカー表示灯

ウインカーを操作した時に右、または左の表示方向を点滅させて表示します。

燃料計

ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁが”OFF”位置では表示しません。
ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁが“ON”位置で燃料残量を表示します。”E”位置に近づいたら早めに給油して下さい

イグニッションスイッチの操作

ﾏｸﾞﾈｯﾄｼｬｯﾀｰｷｰ

ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｰｼｬｯﾀｰ

- 磁石式の鍵で、ﾏｸﾞﾈｯﾄｷｰ部をﾏｸﾞﾈｯﾄｷｰ穴にｾｯﾄし、左に回すとｷｰ穴のｼｬｯﾀｰが閉じます。
- ﾒｲﾝｽｲｯﾁを使用する時は右に回すとｼｬｯﾀｰが開きます。

メインスイッチ

" **スタート** " 位置

この位置でｴﾝｼﾞﾝは始動できます
ｷｰは抜き取る事はできません

 " **ストップ** " 位置

ｴﾝｼﾞﾝをかけない時、止める時に使います
ｷｰは抜き取る事が出来ます

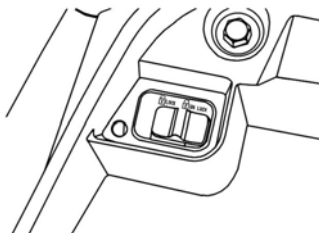
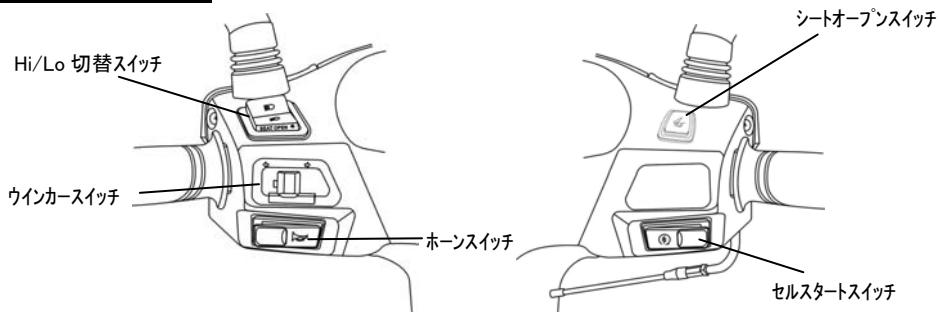
 " **ﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟｵｰﾌﾟﾝ** " 位置

この位置でﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟが開きますｷｰは "⊗" からこの位置まで直接回す事が出来ます放すと "⊗" 位置に戻ります

 " **ﾊﾝﾄﾞﾙﾛｯｸ** " 位置

ｷｰを押してから回して下さいﾊﾝﾄﾞﾙがﾛｯｸされますｷｰは抜き取る事が出来ます。
ﾊﾝﾄﾞﾙﾛｯｸを解除する時は "⊗" 位置まで回して下さい 。

防盗スイッチ

このスイッチはトランクボックス内にあります。
スイッチを " **LOCK**" にセットすると
エンジンは始動出来なくなります。
始動する時はスイッチを " **UN LOCK** " にして下さい。
スイッチをセットした後はシートを必ずロックして下さい。

スイッチの使い方

シートオープンスイッチ

メインスイッチが"ON"位置でこのスイッチを押すとシートロックが解除されます

セルスタートスイッチ

スターターモーターでエンジンを始動する時にこのスイッチを使用します。

メインスイッチを "◯" 位置にし、前輪又は後輪のブレーキをかけた状態でスイッチを押します。

⚠ ご注意！！

- 始動後はすぐにスイッチから手を離して下さい。セルを回し続けると故障の原因になります
- 前輪か後輪のブレーキをかけていないと始動しない安全機構になっています

Hi/Lo 切替スイッチ

Hi ビーム

Lo ビーム（市街地、すれ違い時は Lo ビームをご使用下さい）

ウインカースイッチ

- メインスイッチが "◯" 位置の時にウインカースイッチを右、又は左にスライドさせると作動します。
- 解除する時はウインカースイッチを押すと消灯します。

右ウインカーライト点滅は右に曲がる事を表します。

左ウインカーライト点滅は左に曲がる事を表します。

ホーンスイッチ

メインスイッチが "◯" 位置の時にスイッチを押すとホーンが鳴ります。

シートロック

- 解除方法： 1. シートロックキー穴にキーを差込み、左に回してロックを解除します
  2. メインスイッチを "ON" 位置にして、シートオープンスイッチ " " を押します
- 施錠方法：シートを押し下げて確実にロックして下さい

> ⚠ **ご注意！！**
> - シートをロックする前にキーをボックス内から取り出した事を確認して下さい。
> - ボックス内に荷物を入れ過ぎてロック解除が困難な場合はキーで開けて下さい。

フロントポケット

- 必要以上に荷物を入れないで下さい。ハンドル操作に影響を与えます
- 洗車する時は荷物を取り出して下さい。

> ⚠ **ご注意！！**
> - ポケットの中の通気穴を塞がないで下さい。エンジンシステムに影響を与える恐れがあります

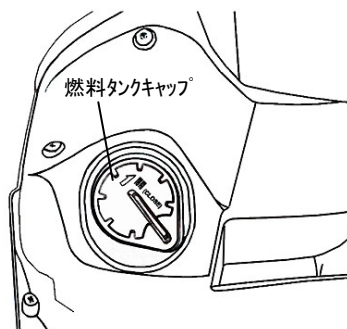
ヘルメットフック

- シートを開け、フックに掛けてからシートを閉めて下さい。

> ⚠ **ご注意！！**
> - ヘルメットを掛けたまま走行しないで下さい。
> 車両を傷めたり、ヘルメットの機能低下にもつながります。

ガソリンタンクキャップ

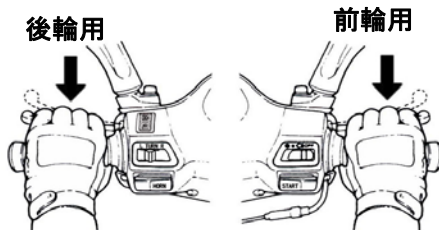
- メインスイッチキー穴にキーを差込み、" " 位置から " " 位置まで回すと自動的に開きます。
- 給油終了後は"カチッ"と音がしてキャップがロックされるまで押し付けながら右に回して閉めて下さい。

> ⚠ **ご注意！！**
> - 給油時はメインスタンドで車体の安定を確認し、火気は厳禁です。
> - 給油時は勢いよく入れると吹き返しを起こして危険です。
> - 給油時は入れすぎないようにして下さい。車両に悪影響を与える恐れがあります。
> - 無鉛レギュラーガソリンを使用して下さい。

トランクボックス

- ｼｰﾄ下にﾄﾗﾝｸﾎﾞｯｸｽがあります
- ｼｰﾄを閉めた時は確実にﾛｯｸされているか確認して下さい
- ﾄﾗﾝｸﾎﾞｯｸｽに貴重品は入れないで下さい。
- 最大積載量：10kg。
- ｴﾝｼﾞﾝの熱の影響を受けますので熱に弱い物は入れないで下さい。
- 洗車時は荷物を取り出して下さい。

ブレーキ

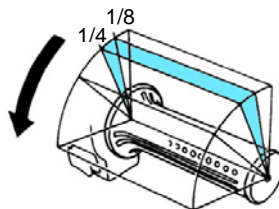
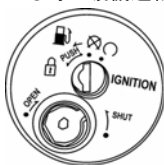
- 不必要な急ﾌﾞﾚｰｷは避けて下さい
- 雨の日はｽﾋﾟｰﾄﾞを控えて早めのﾌﾞﾚｰｷを心がけて下さい
- 長時間連続してﾌﾞﾚｰｷを使用しているとﾌﾞﾚｰｷが過熱して効きが悪くなります。
- ﾌﾞﾚｰｷは前後同時に使用して下さい。

⚠ ご注意！！

- 前輪のみや後輪のみのﾌﾞﾚｰｷ操作は不安定になり、転倒しやすくなります。

エンジン始動要領と注意事項

⚠ ご注意！！

- ｴﾝｼﾞﾝ始動前に必ずｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙとｶﾞｿﾘﾝが充分にあるか、ﾁｪｯｸして下さい。
- ｴﾝｼﾞﾝ始動時は車両が飛び出さないように後輪ﾌﾞﾚｰｷを必ずかけて始動して下さい。

1. ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを “◯” 位置まで回して下さい
2. ｽﾛｯﾄﾙｸﾞﾘｯﾌﾟを回さずにﾌﾞﾚｰｷをかけた状態でｾﾙｽｲｯﾁを押して下さい
3. ｴﾝｼﾞﾝが冷えている時は暖機運転して下さい

⚠ ご注意！！

- ｽﾀｰﾀｰﾓｰﾀｰを3～5秒回しても始動しない時は、ｽﾛｯﾄﾙｸﾞﾘｯﾌﾟを 1/8～1/4 ほど回してｽﾀｰﾀｰﾎﾞﾀﾝを押して下さい
- ｽﾀｰﾀｰﾓｰﾀｰ保護の為、15 秒以上連続してｾﾙを回さないようにして下さい
- ｽﾀｰﾀｰﾎﾞﾀﾝを 5 秒以上押しても始動しない時は、10 秒以上経ってから再度始動して下さい
- 長い間ｴﾝｼﾞﾝをかけていなかった車両や、ｶﾞｿﾘﾝが空のままで給油したばかりの車両はさらに始動しにくいです。何度もｽﾀｰﾀｰﾎﾞﾀﾝを押す必要がありますが、ｽﾛｯﾄﾙｸﾞﾘｯﾌﾟは回さずに始動して下さい。
- ｴﾝｼﾞﾝが冷えている時はｴﾝｼﾞﾝが暖まるまで数分かかります。
- 排気ｶﾞｽには有害物質(CO)が含まれます。換気の良い場所で始動して下さい。

【キックペダルでエンジンを始動する場合】

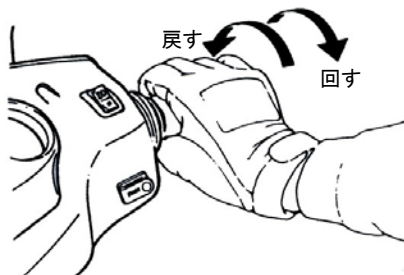
- ｽﾃｯﾌﾟ 1 の後、ｽﾛｯﾄﾙｸﾞﾘｯﾌﾟ回さず、ｷｯｸﾍﾟﾀﾞﾙをｷｯｸして下さい。
- ｴﾝｼﾞﾝが冷えていて始動が困難な時はｽﾛｯﾄﾙを 1/8～1/4 程、回すと始動しやすくなります。
- ｴﾝｼﾞﾝ始動後はｷｯｸﾍﾟﾀﾞﾙを元の位置に戻して下さい。

正しい走り方

- ｽﾀｰﾄ前に方向指示器で合図を出し、後方の安全確認をしてｽﾀｰﾄしましょう。
- ｽﾀｰﾄ前にｽﾀﾝﾄﾞが収納されているか確認してからｽﾀｰﾄしましょう

スロットルバルブコントロール

回す：速度が速くなります。ゆっくり回しましょう。登り坂ではさらに回して力をつけましょう。

戻す：速度を下げます。すばやく戻しましょう

停車する時

1. 止まる地点が近づいたら
   - 早めに方向指示器で合図を出し、後方や側方の車両に注意し、除々に左に寄りましょう。
   - ｽﾛｯﾄﾙを戻し、早めにﾌﾞﾚｰｷをかけて下さい。
2. 完全に車両が止まったら
   - 方向指示器を元に戻してｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを "⊠" にしてｴﾝｼﾞﾝを停止して下さい。

⚠ ご注意！！

- 走行中はｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを操作しないで下さい。思わぬ事故を招く恐れがあります。

3. ｴﾝｼﾞﾝが完全に止まってから車両左側より降りて下さい。交通の妨げにならない所で水平な場所を選び、ﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞで駐車して下さい。
   - 左手でハンドルを持ち、シート前先端を掴むか、右手でシート左下のパーキングハンドルを掴んでください。
   - 右足でメインスタンドを押し、地面にしっかりメインスタンドが安定するように降ろしてください。
4. ﾊﾝﾄﾞﾙﾛｯｸを掛けて、駐車後は車両盗難にあわないようにｷｰを必ず抜いて下さい。

⚠ ご注意！！

- 走行後はﾏﾌﾗｰが大変熱くなっています。通行人や子供が触れて火傷をしないように注意して駐車して下さい。
- ｻｲﾄﾞｽﾀﾝﾄﾞは平坦では無い所や一時的に止める時に使用します。使用する際には安定性を向上させるためにﾊﾝﾄﾞﾙを左にして使用して下さい。
- サイドスタンドでの駐車後はエンジンを始動する前にサイドスタンドを上げて下さい。思わぬ事故の原因となります。

日常の点検

ﾁｪｯｸ項目		ﾁｪｯｸﾎﾟｲﾝﾄ
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ		ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙの量は充分ですか？
ｶﾞｿﾘﾝ		量は充分ありますか？(無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝに限る)
ﾌﾞﾚｰｷ	前輪	ﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞの状態は？(ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰの遊び:10～20mm)
	後輪	ﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞの状態は？(ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰの遊び:10～20mm)
ﾀｲﾔ	前輪	空気圧は正常ですか？(標準1.75kg/㎠)
	後輪	空気圧は正常ですか？(標準1人乗車2.0kg/㎠　2人乗車2.25kg/㎠)
ｽﾃｱﾘﾝｸﾞﾊﾝﾄﾞﾙ		ﾊﾝﾄﾞﾙが異常に振動したり、操作が重くないですか？
ﾒｰﾀｰ、ﾗｲﾄ、ﾊﾞｯｸﾐﾗｰ		正しく作動しますか？ﾗｲﾄは点灯しますか？後方は確認できますか？
車体各部締付状態		ボルト、ﾅｯﾄの緩みはありませんか？
異常のあった箇所		以前のﾄﾗﾌﾞﾙは直っていますか？

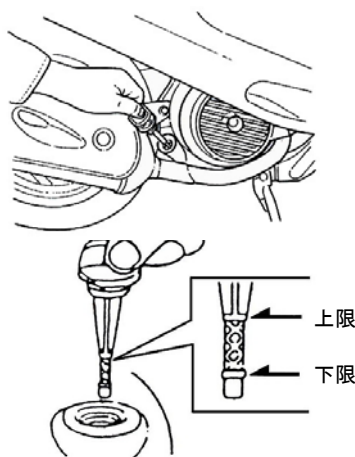
⚠ ご注意！！

- 日常の点検で何か問題が見つかった場合はすぐに修理をして下さい。必要な場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持込いただき、修理を依頼して下さい。

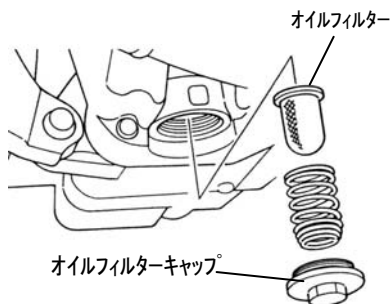
ガソリンの点検

- 無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝを使用して下さい。ﾒｲﾝｽｲｯﾁを "◯" 位置にしてｶﾞｿﾘﾝ残量を確認して下さい。
- 給油の時はﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞで駐車し、ｴﾝｼﾞﾝを止めて火気の無い状況で行って下さい。
- 給油時は上限を超えて給油しないで下さい。走行中にﾄﾗﾌﾞﾙを起こしたり、排気ｶﾞｽ制御機構に影響を及ぼす恐れがあります。

エンジンオイルの点検と交換

- ﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞを使用して水平で安定した場所に車両を置いて下さい。ｴﾝｼﾞﾝを止めて 2～3 分後にﾚﾍﾞﾙｹﾞｰｼﾞを抜いて、オイルを拭取って再度入れて下さい。(回転させない)。
- ﾚﾍﾞﾙｹﾞｰｼﾞを抜取りｵｲﾙﾚﾍﾞﾙが上限、下限の間にあるかどうか確認して下さい。
- ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙが下限付近の時は補充して下さい
- ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙは SAE 10W-40 API SH/CD ｸﾞﾚｰﾄﾞ以上のものをご使用下さい。低ｸﾞﾚｰﾄﾞ、低品質オイルをご使用の場合はﾒｰｶｰ保証の対象外です。
- オイル容量：1.0 ﾘｯﾄﾙ
- 交換時：0.85 ﾘｯﾄﾙ

【オイルフィルター清掃】

- ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰｷｬｯﾌﾟを開けてｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰを取り出しますｶﾞｿﾘﾝ又はｴｱｶﾞﾝを使い清掃して下さい。
- ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰはｴﾝｼﾞﾝの右下にあります。

> ⚠ **ご注意！！**
> - 傾斜していたり、ｴﾝｼﾞﾝ停止直後は正確なｵｲﾙ量は確認できません。
> - ｵｲﾙ交換時はﾌｨﾙﾀｰも同時に清掃して下さい。

トランスミッションオイルの点検と交換

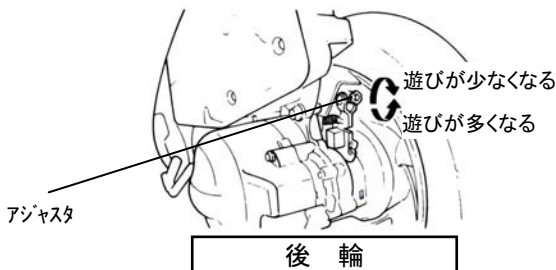
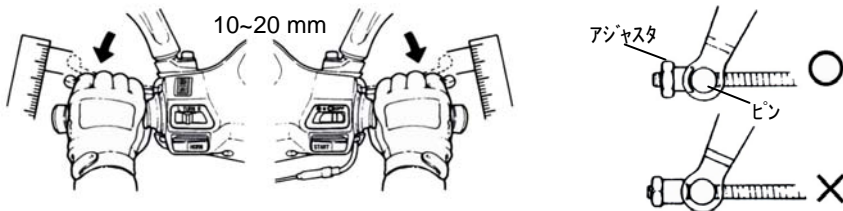
点検：水平で安定した場所にﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞを使用して車両を止めます。ｴﾝｼﾞﾝを止めてから 3～5 分待ってﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄを外し、ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄの下に計量ｸﾞﾗｽを置いてからﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを外して、出てきたｵｲﾙを計量してｵｲﾙ量を点検して下さい。（全容量：110cc. ／ 交換時：100 cc.）。

交換：ｴﾝｼﾞﾝを止め、ﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞを使用して水平で安定した場所に車両を止めて下さい。ｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄとﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを外してｵｲﾙを抜取って下さい。全て出ましたらﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄをしっかり締めて下さい新しいﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ（100cc）を入れて下さい。注入が終わりましたらｲﾝﾌｭｰｼﾞｮﾝﾎﾞﾙﾄを締めて下さい（ｵｲﾙ漏れが無いかを確認して下さい）

※ **推奨オイル**：SYM 純正ﾊｲﾎﾟｲﾄﾞｷﾞﾔｵｲﾙ(SAE 85W−140)
※ 外気温度が 0℃になる地域では SAE85W−90 をお使い下さい。

ドラム式ブレーキの遊びの点検と調整

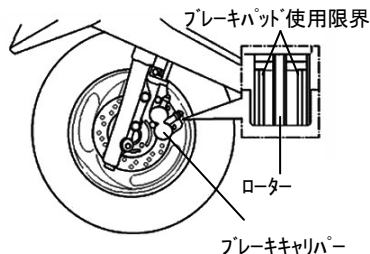
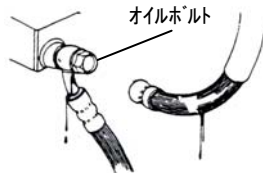
- 後輪ﾌﾞﾚｰｷｱｰﾑのｱｼﾞｬｽﾀを回してﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰの遊びを調整します。
- 調整後はﾌﾞﾚｰｷを握ってみて、ﾌﾞﾚｰｷの効き具合を確認して下さい。
- ｽｹｰﾙなどを使って遊びを測って下さい。遊びは 10～20mm です。
- 定期的に SYM 特約店でﾌﾞﾚｰｷの点検をして、ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾆﾝｸﾞの磨耗がひどい場合は交換して下さい
- ｱｼﾞｬｽﾀの凹部がﾋﾟﾝにかみ合う位置にして下さい。（右下図参照）

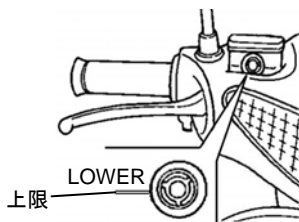
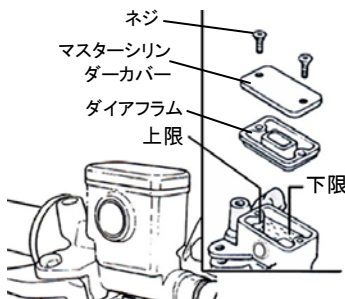
後　輪

ディスクブレーキの点検（ディスクブレーキ装着車に適用）

- 目視にてﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾝの漏れ、損傷を確認して下さい。ﾚﾝﾁ等の工具によりﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾝ接続部に緩みが無いかを確認して下さい。ｽﾃｱﾘﾝｸﾞを回してﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾝに損傷を起こしそうな部分が無いかﾁｪｯｸして下さい。
- **万が一漏れや損傷があった場合は SYM 特約店にお持込になり修理を依頼して下さい。**
- ﾌﾞﾚｰｷを作動させ、ﾊﾟｯﾄﾞの磨耗をﾁｪｯｸして下さい。ｷｬﾘﾊﾟｰ後方から点検してﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞの使用限界部分がﾛｰﾀｰに当たっている場合はﾊﾟｯﾄﾞを交換して下さい。
- 車両を安定した場所に停めて、ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙが下限を下回っていないかチェックして下さい。

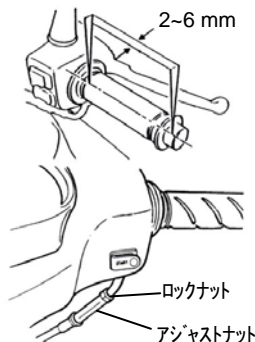
使用ｵｲﾙ：DOT 3

⚠ ご注意！！

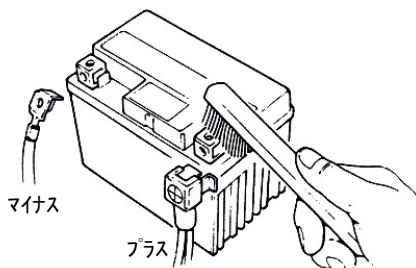
- 車両が傾いていると正確なｵｲﾙ量が測れません。
- 化学変化の恐れがあるので種類の違うｵｲﾙを混ぜて使わないで下さい。
- 補充時は上限を超えない事。塗装面を傷めるので塗装部やﾌﾟﾗｽﾁｯｸに付着させないように注意して下さい。

- ｽｸﾘｭｰを緩め、ﾏｽﾀｰｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾊﾞｰを外す。
- ﾘｻﾞｰﾊﾞｰ内に異物が入らないように異物や汚れを拭取って下さい。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑを外します。
- ﾌﾞﾚｰｷｵｲﾙを上限まで補充して下さい。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑとﾏｽﾀｰｼﾘﾝﾀﾞｰｶﾊﾞｰを取付ける。
- ﾀﾞｲﾔﾌﾗﾑの向きと異物の混入に注意しながらｶﾊﾞｰを閉めて下さい。

⚠ ご注意！！

- 点検や補充時はｴﾝｼﾞﾝを停止させてから行って下さい。

スロットルバルブクリアランスの調整

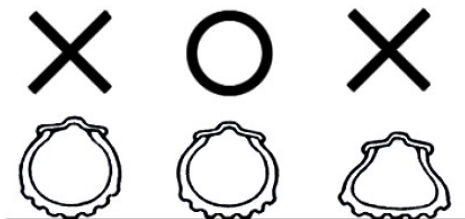
- 2-6㎜の遊びでクリアランスを調整して下さい。
- 調整時はまずロックナットを緩めてから調整ナットを回して調整します。調整後はロックナットを確実に締めて下さい
- 調整完了後はスロットルの回転、ハンドルの左右の動きに異常が無いか、ケーブルが干渉していないかを確認して下さい。

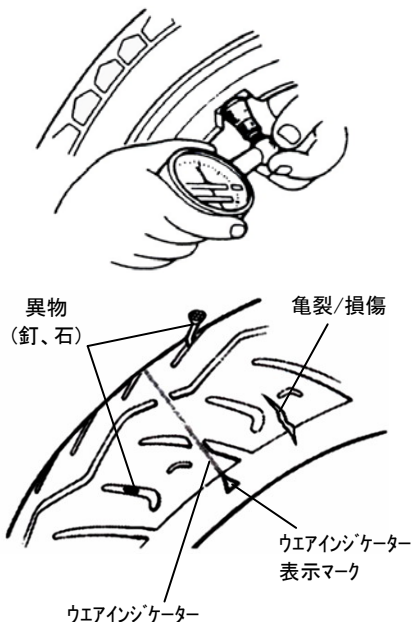
> ⚠ **ご注意！！**
> - 走行時のスピードコントロールに危険が無いように注意して調整して下さい。

バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両には補水不要のメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しています。万が一異常があった場合は SYM 特約店にご相談下さい。
- バッテリー端子に汚れや腐食がある時は取外して清掃して下さい。
- バッテリー取外し手順：イグニッションスイッチを "⊠" にして先にマイナスケーブルを外してからプラスケーブルを外します。

> ⚠ **ご注意！！**
> - 端子に白粉が付着している時はぬるま湯で清掃して下さい。
> - 端子の腐食が激しい時は金ブラシかサンドペーパーで清掃して下さい。
> - 清掃後は端子にグリスを塗ってからケーブルを取付けて下さい。
> - バッテリーの取付は取外しの逆手順で行って下さい。

> ⚠ **ご注意！！**
> - 密閉タイプのバッテリーなので、キャップは絶対に外さないで下さい。
> - バッテリーは長期間使用しないでいると自己放電します。長期間使用しない場合は車両から外して通風のある冷暗所に保管するか、マイナスケーブルを外しておくようにして下さい。
> - バッテリーを交換する時はメインスイッチを"OFF"してから行って下さい。また交換する時は必ず密閉式メンテナンスフリーバッテリーで指定規格のものを使用して下さい。
> - エンジン回転中はバッテリー端子を外さないで下さい。電気部品の故障原因となります。

タイヤの点検

- ｴﾝｼﾞﾝを停めてからﾀｲﾔの点検や空気圧の補充を行って下さい。
- ﾀｲﾔの接地面の形状が異常な時は空気圧ｹﾞｰｼﾞでﾁｪｯｸの上、規定圧まで補充して下さい。
- ﾀｲﾔの空気圧はﾀｲﾔが冷えている状態でｴｱｹﾞｰｼﾞによりﾁｪｯｸして下さい。

標準タイヤ空気圧スペック参照

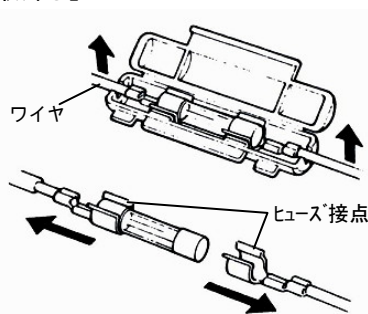
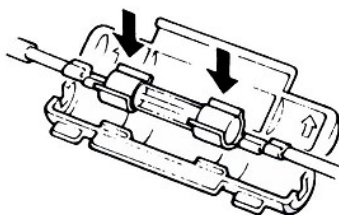
- 亀裂や損傷はﾀｲﾔ前面、横面まで確認して下さい
- 目視にてﾄﾚｯﾄﾞ面の釘や小石を確認して下さい
- ｳｴｱｲﾝｼﾞｹｰﾀｰをﾁｪｯｸしてﾀｲﾔの磨耗具合を確認して下さい。
- ｳｴｱｲﾝｼﾞｹｰﾀｰが出てきたﾀｲﾔは交換して下さい

フロントサスペンションの点検

- ｴﾝｼﾞﾝを止めて、キーを抜いてから点検して下さい
- ｻｽﾍﾟﾝｼｮﾝに損傷が無いか目視で確認して下さい
- ﾊﾝﾄﾞﾙを上下に動かして異音や曲がりが無いか確認して下さい。
- ﾚﾝﾁ等でボルト、ﾅｯﾄの締り具合を確認して下さい
- ﾊﾝﾄﾞﾙを上下、左右、前後に揺らして、ｶﾞﾀや過剰な抵抗、ﾊﾝﾄﾞﾙ取られが無いか確認して下さい。
- ﾌﾞﾚｰｷｹｰﾌﾞﾙ等でﾊﾝﾄﾞﾙが取られないか確認して下さい。
- 万一異常があった場合はSYM特約店で点検修理をお受け下さい。

ヒューズの点検と交換

- ﾒｲﾝｽｲｯﾁ”OFF”で確認をします
- ﾋｭｰｽﾞはﾊﾞｯﾃﾘｰ付近のﾋｭｰｽﾞﾎﾞｯｸｽ内にあります。
- 外側ｷｬｯﾌﾟを開け、ﾋｭｰｽﾞﾎﾞｯｸｽのﾌﾀを開けます。ﾋｭｰｽﾞの両端を取って上に引っ張って下さい。ﾋｭｰｽﾞの接合部からﾋｭｰｽﾞを取外して下さい。
- ﾗｲﾄが点灯しない場合などはﾋｭｰｽﾞが切れていないか点検して下さい。
- ﾋｭｰｽﾞが切れた時は指定の 15A ﾋｭｰｽﾞを使用して規格以上のﾌｭｰｽﾞや銅線、鉄線を代わりに使用する事は配線の過熱、焼損の原因となるので絶対に使用しないで下さい。
- ﾋｭｰｽﾞを替えてもすぐに切れたり、原因不明で切れてしまう場合はお買い求めの SYM 特約店に車両をお持込いただき、点検してもらって下さい。

【取外し】

【取付】

ﾌﾛﾝﾄ及びﾘﾔﾗｲﾄの点検

- ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを 〝◯〞 位置にしてｴﾝｼﾞﾝを始動し、ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄとﾃｰﾙﾗｲﾄが点灯するか確認する
- ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄの明るさと方向を壁などに当てて確認して下さい
- ﾗｲﾄﾚﾝｽﾞに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい

ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄの点検

- ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを 〝◯〞 位置にして前後輪のﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰを握って、ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄの点灯を確認する
- ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄﾚﾝｽﾞに汚れ、亀裂、緩みが無いか確認して下さい

方向指示器とホーンの点検

- ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｽｲｯﾁを “◯” 位置にして下さい
- 方向指示器のｽｲｯﾁを作動させて前後左右のﾗｲﾄ点滅を確認して下さい
- 方向指示器のﾚﾝｽﾞに汚れ、ひび割れ、緩みが無いか確認して下さい
- ﾎｰﾝﾎﾞﾀﾝを押してﾎｰﾝが鳴るか確認して下さい

> ⚠ **ご注意！！**
> - 後続車に注意を促すために方向転換や進路変更時は方向指示器を点灯させて合図して下さい
> - 方向指示器は、使用後直ちにﾎﾞﾀﾝを押して解除して下さい。点灯させたままですと他の車両の迷惑になり、大変危険です。
> - 方向指示器ﾗｲﾄ球は規定の規格ﾊﾞﾙﾌﾞを使用して下さい。異なった規格のﾊﾞﾙﾌﾞを使用すると、正常な作動ができない恐れがあります。
> - 電装系の改造は負荷が大きくかかりｼｮｰﾄの原因にもなり、車両焼失の恐れもあります。絶対にしないで下さい。

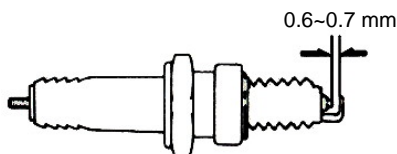
ガソリン漏れの点検

- ｶﾞｿﾘﾝﾀﾝｸ、給油口ｷｬｯﾌﾟ、ｶﾞｿﾘﾝﾎｰｽ、ｷｬﾌﾞﾚﾀｰの漏れを確認して下さい。

車両各部の給脂状態の点検

- 車体の各ピボット部分のグリスが充分か確認して下さい。
  （例：ﾒｲﾝｽﾀﾝﾄﾞ、ｻｲﾄﾞｽﾀﾝﾄﾞ、ﾌﾞﾚｰｷﾚﾊﾞｰのﾋﾟﾎﾞｯﾄ部等）

スパークプラグの点検

- ﾌﾟﾗｸﾞｷｬｯﾌﾟを外し、ﾌﾟﾗｸﾞを取外します。
- 電極の汚れ、ｶｰﾎﾞﾝ付着を確認して下さい
- ｶｰﾎﾞﾝ汚れは金ﾌﾞﾗｼで磨き、ｶﾞｿﾘﾝで洗浄したのち、布でよく拭き完全に乾かして下さい。
- 電極すき間を点検してキャップを 0.6～0.7mm に調整して下さい。（ギャップツールを使用）
- ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞは手で締めた後、さらにﾚﾝﾁで 1/2～3/4 回転締付けて下さい。

警告：走行後はエンジンが大変熱いので、火傷に注意して下さい！
※メーカー指定規格のスパークプラグを使用して下さい（スペック表参照）

エアクリーナーの点検

ｴｱｸﾘｰﾅｰが汚れていると出力減少や燃費悪化の原因になります

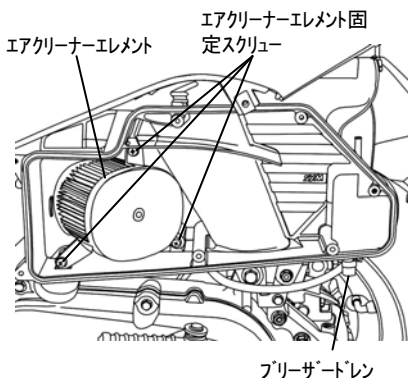
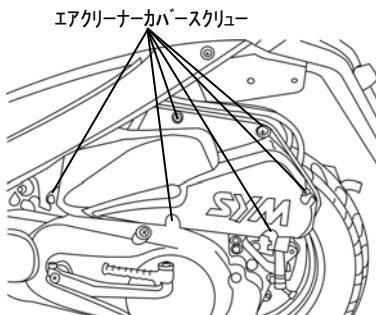
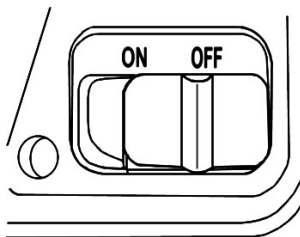
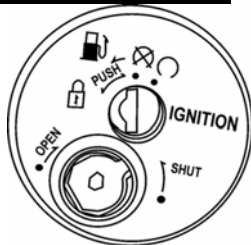
〈取外し手順〉

1. 左ﾎﾞﾃﾞｨｶﾊﾞｰを取外す
2. ｽｸﾘｭｰを緩めｴｱｸﾘｰﾅｰｶﾊﾞｰを取外す
3. ｴｱｸﾘｰﾅｰｴﾚﾒﾝﾄを取外す
4. ｴﾚﾒﾝﾄの汚れを点検し、清掃する。汚れがひどい場合は交換して下さい

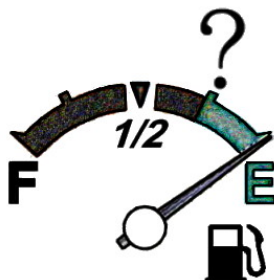
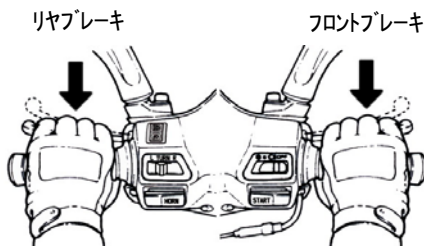
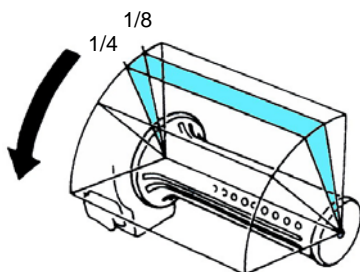
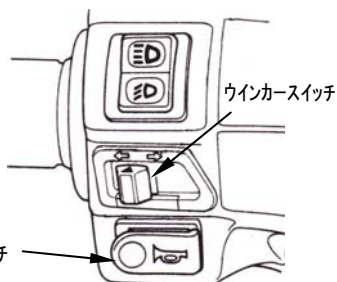
〈取付手順〉

- 取外しの逆手順にて取付けをして下さい

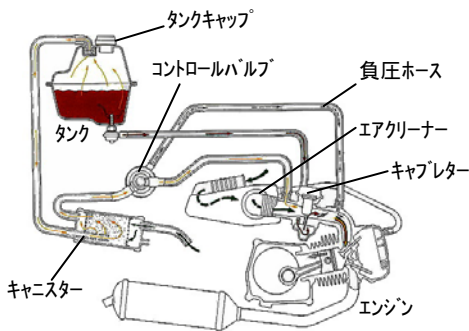
ご注意！！

- ｴｱｸﾘｰﾅｰが正しく装着されていないとｺﾞﾐや汚れを吸込んでｼﾘﾝﾀﾞｰの磨耗や出力低下を起こし、ｴﾝｼﾞﾝの耐久性に悪影響を与えますので確実に取付けて下さい
- 洗車する時にｴｱｸﾘｰﾅｰが濡れるとｴﾝｼﾞﾝが始動できなくなる恐れがあります
- ｴｱｸﾘｰﾅｰ後方にﾌﾞﾘｰｻﾞｰﾄﾞﾚﾝがありますので、1000km 毎に堆積物を排出して下さい

エンジンが始動しないとき

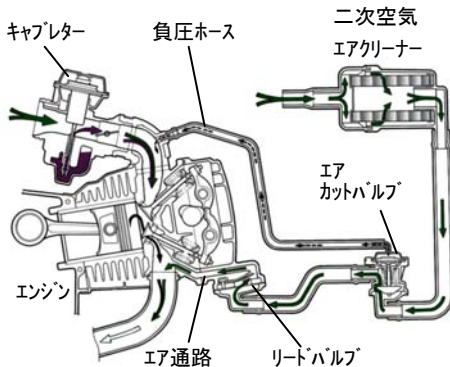
1. ﾒｲﾝｽｲｯﾁは“ON”位置にありますか？

2. 防盗ｽｲｯﾁは “OFF” か “🔓” 位置ですか？

3. ｶﾞｿﾘﾝ残量は充分ですか？

4. ｾﾙﾎﾞﾀﾝを押す時に前または後ﾌﾞﾚｰｷをかけていますか？

5. ｾﾙﾎﾞﾀﾝを押しながら、ｽﾛｯﾄﾙを回し過ぎていませんか？

6. ﾒｲﾝｽｲｯﾁを”ON”位置にしてﾎｰﾝﾎﾞﾀﾝを押して下さい。ﾎｰﾝが鳴らない場合はﾋｭｰｽﾞが切れているかもしれません。

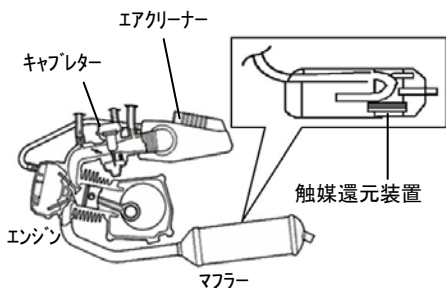
上記に該当するところが無くｴﾝｼﾞﾝが始動しない場合はお買い求めの SYM 特約店にご相談下さい

蒸発ｶﾞｽコントロールシステム

ｼｽﾃﾑ:

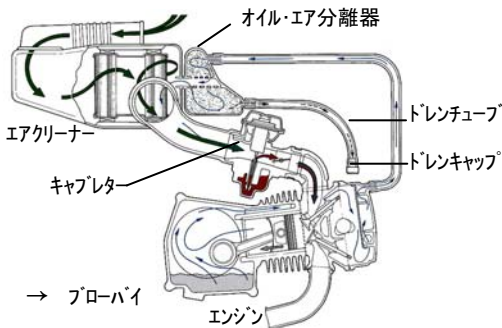
ｶﾞｿﾘﾝﾀﾝｸ内の蒸発ｶﾞｽは蒸発ｶﾞｽｺﾝﾄﾛｰﾙｼｽﾃﾑ内の各ﾊﾟｲﾌﾟに流れ込み大気中に放出されないようにしています。蒸発ｶﾞｽはｷｬﾆｽﾀｰに導かれｷｬﾆｽﾀｰの炭素粒子に一時的に吸収され、ｴﾝｼﾞﾝ始動後に負圧により燃焼室内に導かれます。

二次空気供給システム

ｼｽﾃﾑ:

ｴﾝｼﾞﾝ排気管内に二次空気を導入する事により、未燃焼ｶﾞｽを再度排気管内で燃焼させ、CO・HC は無害の CO_2、H_2O として排出される。

触媒還元装置

ｼｽﾃﾑ:

触媒還元装置はﾏﾌﾗｰ内にあり、不完全燃焼ｶﾞｽの CO、HC、NOx はﾏﾌﾗｰ内の触媒による反応により無害の CO_2、H_2O、N_2 に還元されて排出される。

ﾌﾞﾛｰﾊﾞｲｶﾞｽ還元システム

ｼｽﾃﾑ:

ｴｱｸﾘｰﾅｰに取付られたｵｲﾙ・ｴｱ分離器にｴﾝｼﾞﾝからのﾌﾞﾛｰﾊﾞｲｶﾞｽが流れ込みます。分離されたｴｱはｴﾝｼﾞﾝ負圧により、ｴﾝｼﾞﾝに吸い込まれ燃焼される。ｵｲﾙはﾄﾞﾚﾝﾁｭｰﾌﾞ内に溜まるので、定期的に抜いて下さい。

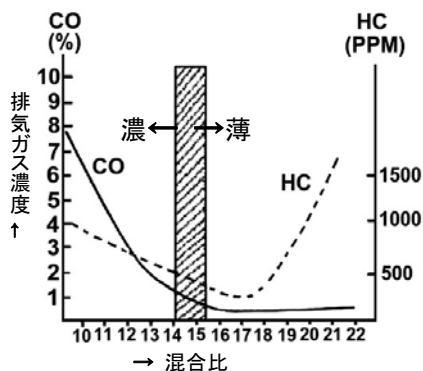
⚠ ご注意！！

- 必ず無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰ以上のｶﾞｿﾘﾝを使用して下さい。粗悪ｶﾞｿﾘﾝは触媒を傷めます。
- 下り坂等でｷｰ OFF のまま走行する事はやめて下さい。触媒に損傷を与える恐れがあります。

排気ｶﾞｽ中の環境汚染物質：ｶﾞｿﾘﾝの不完全燃焼は CO と HC を発生させる大きな要因で、ｶﾞｿﾘﾝの浪費にもつながります。車両の性能維持と排気ｶﾞｽの減少、ｶﾞｿﾘﾝの節約のためにも定期的な点検とﾒﾝﾃﾅﾝｽが大変重要です。

1. ｴｱｸﾘｰﾅｰの清掃と交換：
   ｴｱｸﾘｰﾅｰはｼﾘﾝﾀﾞｰに吸い込まれる空気のﾎｺﾘや汚染物質をろ過する役割をしています。汚れていては空気はｽﾑｰｽﾞに流れません。通気性が悪いと空気量が減り、混合気が濃くなり不完全燃焼し、ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝや燃費の悪化、排気ｶﾞｽ濃度の上昇を起こします。こまめに清掃し、清掃しても通気性が確保できない場合は交換して下さい。また交換する際は必ず SYM 純正ｴｱｸﾘｰﾅｰを使用して下さい。純正以外では適正な性能を維持できない恐れがあります。
2. ｷｬﾌﾞﾚﾀｰの調整と交換：ｷｬﾌﾞﾚﾀｰの調整が悪いとｶﾞｿﾘﾝと空気の混合比率が濃すぎたり、薄すぎたりして不完全燃焼を起こし、ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝや燃費の悪化、排気ｶﾞｽ濃度の上昇をおこします。
   ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ不良の主な原因：
   (1)ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ油面：油面は規定通りに調整して下さい。
   (2)ﾁｭｰｸ不良：
   (3)ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ詰り：汚れによりｴｱ通路、ｶﾞｿﾘﾝ通路が詰まると空燃比が狂います。清掃し、それでも詰りが解消出来ない場合は交換して下さい。
3. 点火ﾌﾟﾗｸﾞの清掃、調整と交換：
   点火ﾌﾟﾗｸﾞの汚れを清掃し、ｷﾞｬｯﾌﾟを調整します。電極に磨耗や異常がある時は交換して下さい。不良なﾌﾟﾗｸﾞは不完全燃焼や燃費の悪化、ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝを招きます。
4. ﾊﾞﾙﾌﾞｸﾘｱﾗﾝｽの調整：
   ﾊﾞﾙﾌﾞｼｰﾄの磨耗、密閉不良、ﾊﾞﾙﾌﾞｸﾘｱﾗﾝｽの調整不良は不完全燃焼の原因となります。定期的に点検調整をして、磨耗している場合は交換して下さい。また、ﾊﾞﾙﾌﾞｸﾘｱﾗﾝｽの調整は正確に調整されていなければなりません。
5. ｵｲﾙ交換時は上限を超えない：
   ｵｲﾙ量が過剰な場合、燃焼室までｵｲﾙが上がり炭素が溜まります。混合気の燃焼に影響し、ﾊﾟﾜｰﾀﾞｳﾝや燃費の悪化を招きます。
6. 点火時期は確実に合わせて下さい：
   強力な火花で完全燃焼するとｴﾝｼﾞﾝﾊﾟﾜｰは大きくなり、ｶﾞｿﾘﾝの節約、排気ｶﾞｽの減少につながります。異常時は CDI ﾕﾆｯﾄを交換して下さい。
7. ｴﾝｼﾞﾝの老化や磨耗はｶﾞｿﾘﾝ浪費につながります。部品の点検を受けて下さい。
8. 燃費節約のﾎﾟｲﾝﾄ：
   (1)暖機運転を行ってから走行して下さい。
   (2)不要な急加速、急ﾌﾞﾚｰｷはおやめ下さい。
   (3)停車時は早めに減速して、急ﾌﾞﾚｰｷは避けましょう。
9. 点検調整を受けた車両は最高の状態になっています。加速がｽﾑｰｽﾞになり力不足に感じるかもしれませんが、ｶﾞｿﾘﾝ節約と環境汚染減少につながっていますので、元に戻さないで下さい。

CO	HC	原　因
高	正常	ｶﾞｿﾘﾝと空気の混合比率が濃い
正常	高	1. 点火系統不良： ● 点火ﾀｲﾐﾝｸﾞ不良 ● ﾌﾟﾗｸﾞの汚れ、ｷﾞｬｯﾌﾟ不良 ● C.D.I.点火ﾕﾆｯﾄ不良 ● 点火ｺｲﾙ不良 2.ｴｷｿﾞｰｽﾄﾊﾞﾙﾌﾞ磨耗 3.ｼﾘﾝﾀﾞｰ磨耗
低	高	1. 混合気が濃すぎ、薄すぎで点火不良 2. ｴｱ漏れ： ● 負圧ﾁｭｰﾌﾞ漏れ ● ｲﾝﾚｯﾄﾊﾟｲﾌﾟ漏れ ● 点火ﾌﾟﾗｸﾞｶﾞｽｹｯﾄ漏れ
高	高	1. ｴｱｸﾘｰﾅｰ汚れ 2. ｷｬﾌﾞﾚﾀｰ不良： ● 混合気が濃すぎる ● ﾌﾛｰﾄ油面不良 ● ﾁｮｰｸ不良 ● ｱｲﾄﾞﾙｽｸﾘｭｰ、ﾆｰﾄﾞﾙﾊﾞﾙﾌﾞ磨耗 3. PCV ﾊﾞﾙﾌﾞのゆるみ 4. 触媒還元装置の劣化

排気ｶﾞｽ煙異常の原因
1. ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ過剰 2. ｵｲﾙﾎﾟﾝﾌﾟ調整不良又は不良 3. 粗悪ｵｲﾙ又は低質ｵｲﾙの使用 4. ｴﾝｼﾞﾝの老化、磨耗 5. 長時間の低速使用(時速 20～30km/h 以下) 6. ﾏﾌﾗｰ内のｶｰﾎﾞﾝ堆積による汚れ

項目	メンテナンス キロメートル	300KM	1000KM毎	3000KM毎	6000KM毎	12000KM毎	備考
	チェック項目　メンテナンス期間	新車時	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	
1	エアークリーナーエレメント（備考）	I		C	R		
2	オイルフィルター（スクリーン）	C			C		
3	エンジンオイル	R	I	3000KM毎交換			
4	タイヤ空気圧	I	I				
5	バッテリー	I	I				
6	スパークプラグ	I		I		R	
7	キャブレター（アイドリングスピード）	I			I		
8	ステアリングベアリング、ハンドル	I		I			
9	トランスミッションの漏れチェック	I	I				
10	クランクケースの漏れチェック	I	I				
11	トランスミッションオイル	R	5000KM毎交換(5ヶ月)				
12	ドライブベルト/ローラー				I	R	
13	ガソリンタンクスイッチ、ライン	I		I			
14	スロットルバルブ操作、ケーブル	I	I				
15	エンジンボルト、ナット	I		I			
16	シリンダーヘッド、シリンダー、ピストン				I		
17	排気システム、クリーニングカーボン				I		
18	カムチェーン/イグニッションタイミング	I		I			
19	バルブクリアランス	I			I		
20	ショックアブソーバー	I			I		
21	前、後サスペンション	I			I		
22	メイン/サイドスタンド	I			I/L		
23	クランクケース、ブローバイシステム(PCV)	I		I			
24	クーラント	I	I			R	
25	クーリングファン、ライン	I	I				
26	クラッチディスク				I		
27	ブレーキメカニズム/ブレーキライニング（パッド)	I	I				
28	各コンポーネントボルト/ナット	I	I				

☆上記メンテナンススケジュールは 1000km 毎を参照ベースとして立てられています。

※車両を適正な状態に保つ為に SYM 正規代理店または取扱店に持ち込み、定期的チェックと調整を受けてください。

コード：Ｉ点検　　A 調整　　R 交換　　C 清掃（必要に応じて交換）　　L 給油

備考：1. ほこりっぽい道、環境汚染のひどい地区での走行車両はエアクリーナーエレメントの洗浄、取替えは、より頻繁にしてください。

2. 頻繁に高速走行したり、総走行距離数が高い場合はメンテナンスをより頻繁にして下さい。

【備考欄のノートは適用モデルを表記しています】

注1：高速運転、高負荷運転や短距離走行が多い車両は 1000km 毎にオイル交換をして下さい。

注2：環境温度が 3℃以上なら SAE 85W-140, 3℃以下であれば SAE 85W-90 を選択して使用して下さい。

項　　目	GT 125	GT 125EFi
	HM12VA	HM12VB
全長/全幅/全高(㎜)	1,810 / 700 / 1,075	
ﾎｲｰﾙﾍﾞｰｽ/ｼｰﾄ高(㎜)	1,215 / 740	
重量(kg)	105 kg	
最小回転半径	1.8 m	
ﾍｯﾄﾞﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ（ﾊｲ ／ ﾛｰ）	12V 35W / 35W ×1 (HS1)	
ﾎﾟｼﾞｼｮﾝﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	1.7W ×2	
ﾃｰﾙ ／ ﾌﾞﾚｰｷﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	LED	
前 ／ 後ｳｲﾝｶｰﾗｲﾄﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 10W ×4	
ｳｲﾝｶｰﾊﾟｲﾛｯﾄﾗﾝﾌﾟﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 3.4W ×2	
ﾒｰﾀｰ照明ﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 1.7W ×2	
ﾊｲﾋﾞｰﾑﾊﾟｲﾛｯﾄﾗﾝﾌﾟﾊﾞﾙﾌﾞ	12V 3W ×1	
ﾋｭｰｽﾞ	15A×2	20A×1　15A×2　10A×1
ﾊﾞｯﾃﾘｰ型式/容量	TTZ10S(密閉式メンテナンスフリーバッテリー)/ 12V 9Ah	
ｽﾊﾟｰｸﾌﾟﾗｸﾞ（ｵﾘｼﾞﾅﾙﾌﾟﾗｸﾞ）	CR7 HSA	
ﾌﾛﾝﾄﾌﾞﾚｰｷ	ディスク（Ø180 ㎜）	
ﾘﾔﾌﾞﾚｰｷ	ドラムタイプ(Ø110 ㎜)	
ﾀｲﾔｻｲｽﾞ（前/後輪）	100−90−10 56J	
ﾀｲﾔ空気圧(1 人乗車時)	前輪 1.75 kg/㎠ ／ 後輪 2.00 kg/㎠	
ﾀｲﾔ空気圧(2 人乗車時)	前輪 1.75 kg/㎠ ／ 後輪 2.25 kg/㎠	
ｴﾝｼﾞﾝ方式	4 サイクル/2 ﾊﾞﾙﾌﾞ/単気筒/強制空冷ｴﾝｼﾞﾝ	
総排気量	124.6 cc.	
最大出力	9.8 ps / 7,500 rpm	
最大ﾄﾙｸ	1.01 kg−m / 6,000 rpm	
登坂能力	28° 以上	
点火方式 ／ 圧縮比	C.D.I. / 10.5：1	ECU / 10.1：1
ｴﾝｼﾞﾝ回転数（ｱｲﾄﾞﾘﾝｸﾞ）	1,700 ±100 rpm	1,750 ±100 rpm
始動方式	セル＆キック式	セル
燃料ﾀﾝｸ容量	5.5 公升（無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ）	5.0 公升（無鉛ﾚｷﾞｭﾗｰｶﾞｿﾘﾝ）
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ容量	1.0L（交換時 0.85L）	0.75L（交換時 0.65L）
トランスミッションオイル容量	110 cc.（交換時 100 cc.)SAE 85W−140(寒冷地：85W−90)	